

このコーナーでは、進路指導や学習指導において心がけていることについて、読者の先生方から寄せられたコメントを紹介する。

今回のテーマ

「センター試験に臨む生徒に、 どのような声かけや指導を行っていますか」

▶▶日ごろからの指導

最後まで諦めないで頑張れるよう、ちょっとした声かけを繰り返す。声かけの内容よりも、教師と繋がっているという感覚を持たせ安心感を与えることが大切。それは入試直前までずっとである。

「睡眠時間6時間と自学6時間を確保せよ!」と話している。限られた時間の中で優先順位をつけながら学習するためには、規則的な生活リズムの確立が不可欠。そのための固定時間を確定し、その上にいかに空き時間を生み出すかの工夫が、受験勉強を通じて成長するために必要であることを、常に意識させる。

センター試験の英語については、1年前の時点ですべてできる範囲内にあるため、高校2年生の段階でおおよその傾向を探らせている。また、センター試験が最大の模擬試験であるというようにも伝えている。基礎的な問題といいながら、平均点が6割というのはどういうことか、考えさせる。

年が明けてから、朝の時間に目を閉じて「1分を数える」練習をさせた。目的は平常心で試験に臨めるようにすること、集中力のアップ、時間を体で覚えることである。

▶▶センター試験1カ月前

「模擬試験の結果がそれほどよくない科目があっても最後まであきらめない。直前の総復習で頭が整理されてくることがあった」などの、自分の体験談を話す。

「一番苦しい時期です。結果がまだまだ表れないから、なおさらです」と話しつつ、現役生はこの時期からめきめき力を発揮しはじめることを、過去の先輩たちの事例を用いながら、暗示をかけていきます。

「現役生は、模擬試験がなくなったこの時期も、まだまだ力は伸びます。ここで自分の可能性に限界を作ってしまうと、最後の最後まで力を伸ばしましょう」と声をかけています。

「準備期間が短い定期試験のことを思えば、まだ1カ月もある。苦手を最初から復習するだけの時間はたっぷりある。焦らないで、じっくり時間をかけなさい」と話しています。

▶▶センター試験前日

「今までやってきたことを信じて、落ち着いて受けなさい。平常心で臨めば、きっとうまくいくよ」と声をかけている。

これまでに積み重ねてきた蓄積と努力を信じ、結果にとらわれず、自分の最善の力を発揮するよう激励。敵は周囲にはなく、己自身の中に潜むことを伝えます。

「完全に成功することなどありえない。かといって、すべて失敗するわけでもない。もし1教科失敗したとしても、くじけずに頑張るなさい。センター試験が終わった当日から2次試験に向けて頑張るように」と激励します。

「当日、周囲の言葉に左右されないように。済んだ科目のことは、全科目終わるまで振り返らないこと」と話しています。

「今さら慌てても仕方ないから、読書など自分の心を落ち着けることをして過ごすのもいいよ」とアドバイスしています。

前日の学年集会とホームルームで「答えは選択肢のどれかである、つまり、答えは提示されているので落ち着いてやろう」と話しています。

センター試験の前日に、学年全体で決起集会を行うのですが、そのあとに、私のクラスは、学校近くの神社で合格祈願をして、円陣を組んで気合を入れました。その中で「学校祭であれだけクラス一丸となって盛り上がったのだから、きっと明日のセンター試験も自己最高得点をとれる。自信を持ちなさい」と伝えました。